

COMPANY RESEARCH AND ANALYSIS REPORT

|| 企業調査レポート ||

インフキュリオン

438A 東証グロース市場

企業情報はこちら >>>

2026 年 8 月 21 日 (金)

執筆：客員アナリスト

吉林拓馬

FISCO Ltd. Analyst **Takuma Yoshibayashi**



FISCO Ltd.

<https://www.fisco.co.jp>

1Q はストック収入の伸長により 調整後 EBITDA が前年同期比 31.7% 増と順調な滑り出し

インフキュリオン <438A> は「決済から、きのうの不可能を可能にする。」をミッションに掲げ、決済・金融機能をあらゆる産業やサービスに組み込む決済イネーブラーとして事業を展開している。一般消費者向けサービス事業者から、BtoB 企業、金融機関、フィンテックスタートアップまでを顧客とし、事業者が自社サービスの中に決済機能を自然に実装できるよう支援する点が特徴である。祖業であるコンサルティングで培った決済に関する深い知見と業界理解をもとに、制度対応や業務設計を踏まえた最適な決済・金融基盤を設計し、自社開発のプラットフォームをクラウド型・API 接続により提供している。主要サービスとして、BtoC・BtoB 双方の事業者で導入可能な決済プラットフォームや、事業者が展開するサービス領域に応じて柔軟に拡張可能な金融機能を提供し、導入企業が展開するサービスの提供価値向上と、決済インフラの最適化によるキャッシュレスの社会実装を支えている。

1Q は BtoB GTV が計画を上回って拡大、 収益性改善と次世代決済への展開が進む

1. 2027 年 3 月期第 1 四半期の業績概要

2027 年 3 月期第 1 四半期業績は、売上高が前年同期比 21.4% 増の 2,419 百万円、売上総利益が同 32.8% 増の 1,142 百万円、調整後 EBITDA が同 31.7% 増の 83 百万円、営業利益が同 5.6% 増の 48 百万円、経常利益が同 6.2% 減の 35 百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益が同 91.7% 減の 19 百万円となった。

収益区分別では、「Xard（エクサード）」及び「Winvoice（ウィンボイス）」の提供領域拡大、新規導入、既存導入先のカード利用増加により、BtoB GTV（決済処理金額）が前年同期比 2.3 倍の 1,128 億円に拡大した。これに伴い、BtoB GTV に連動する従量型ストック収入が同 165.5% 増、ストック収入全体が同 73.7% 増となり、増収をけん引した。金融機関向けのモダナイズ開発や新規導入に伴う開発も貢献し、フロー収入は同 11.1% 増となった。一方で、コンサルティング収入は人員の他セグメントへの移管や大型案件に伴うグループ内取引の増加により同 31.4% 減少した。ストック収入の構成比上昇と業務委託費の抑制により、売上総利益率は 47.2% と同 4.0 ポイント改善した。販管費は「Winvoice」の BtoB GTV 増加に伴う収益分配費用の増加や人件費、租税公課の増加で同 34.3% 増となった。四半期純利益の大幅減の主因は、前年同期に法人税等調整額△ 222 百万円を計上した反動である。セグメント別では、ペイメントプラットフォーム事業の売上高が同 58.9% 増となり、セグメント損失は前年同期の 178 百万円から 13 百万円へ縮小した。マーチャントプラットフォーム事業は決済端末の前倒し導入の反動により売上高が同 2.5% 減、コンサルティング事業は同 31.4% 減となったものの、ペイメントプラットフォーム利用企業数は同 50.2% 増の 116,498 社に達している。BtoB GTV の伸長により、ペイメントプラットフォーム事業の赤字は大幅に縮小しており、ストック収入を軸とした収益構造の改善が進んでいる。

2. 2027 年 3 月期の業績見通し

2027 年 3 月期業績は、売上高が前期比 17.8% 増の 11,200 百万円、EBITDA が同 50.0% 増の 840 百万円、営業利益が同 36.3% 増の 600 百万円、経常利益が同 57.4% 増の 530 百万円、親会社株主に帰属する当期純利益が同 8.0% 増の 480 百万円の見通しである。期初時点では大型案件の体制整備に伴い、第 1 四半期が営業赤字となる可能性も想定されていたものの、BtoB GTV の計画上振れによる売上総利益の増加に加え、業務委託費などのコストコントロールも寄与し、黒字を確保した。業績が下半期に偏る季節性や今後の大型開発案件の費用を考慮すれば、順調な滑り出しと見られる。

セグメント別の売上高は、ペイメントプラットフォーム事業が前期比 43.7% 増の 7,600 百万円、マーチャントプラットフォーム事業が同 15.9% 減の 2,300 百万円、コンサルティング事業が同 12.1% 減の 1,300 百万円の見通しである。ペイメントプラットフォーム事業では、「Xard」や「Winvoice」の利用拡大によるストック収入や、SMBC グループ向けを含む大型開発案件のフロー収入を伸ばし、通期黒字化を目指す。マーチャントプラットフォーム事業は前期の端末導入の反動で減収を見込むが、稼働端末数の増加や「Axios（アクシオス）」の新規稼働に伴うストック収入が下支えすると見られる。コンサルティング事業はグループ内のリソースシフトによるコンサルタント人材の減少が課題となるものの、需要は強く、採用・育成及び AI による生産性向上により回復を目指す。通期計画の達成に向けては、ペイメントプラットフォーム事業の黒字化、大型開発案件の進捗、コンサルティング人材の確保が主な注目点となる。

3. 成長戦略

同社の成長戦略の中核は、「Xard」、「Winvoice」を中心とするペイメントプラットフォーム事業の拡大である。SaaS 企業、金融機関、事業会社への導入を増やすとともに、既存顧客のカード利用を伸ばし、BtoB GTV に連動する従量型ストック収入を積み上げる。あわせて、「Xard」の機能を、与信領域をはじめとしたフルサービスへ広げカード事業への参入障壁を下げるほか、「Winvoice」のアクワイアリングシステムを自社基盤へ切り替え、限界利益率の改善を図る。コンサルティングで得た決済・金融の知見をプロダクト開発に生かせる点も同社の強みである。

足下では、HQ の「食事補助 HQ」、セブン銀行の「money ring」、「TOKIUM ビジネスカード」への「Xard」採用が決定した。また、同社の決済基盤には AI との連携を実現する高い接続性や、AI の自律的な購買を柔軟に制御できる機能群がすでに備わっており、足下では需要が急速に高まっている。さらに DCP とデジタル通貨領域における共同検討を開始するなど、AI・デジタル通貨時代に最適化された決済インフラとして更なる発展を目指す。ストック収入の拡大と次世代決済への対応を両立することで、中長期の成長余地は広がっていくと考える。

Key Points

- ・ 2027 年 3 月期第 1 四半期は BtoB GTV の拡大により好発進
- ・ 2027 年 3 月期通期業績は、ペイメントプラットフォーム事業の黒字化や大型開発案件の進捗が注目点
- ・ 「Xard」のフルサービス化と AI・デジタル通貨対応により中長期の成長領域を拡張

重要事項（ディスクレマー）

株式会社フィスコ（以下「フィスコ」という）は株価情報および指数情報の利用について東京証券取引所・大阪取引所・日本経済新聞社の承諾のもと提供しています。本レポートは、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行為および行動を勧誘するものではありません。

本レポートはフィスコが信頼できると判断した情報をもとにフィスコが作成・表示したのですが、フィスコは本レポートの内容および当該情報の正確性、完全性、的確性、信頼性等について、いかなる保証をするものではありません。

本レポートは、対象となる企業の依頼に基づき、企業への電話取材等を通じて当該企業より情報提供を受け、企業から報酬を受け取って作成されています。本レポートに含まれる仮説や結論その他全ての内容はフィスコの分析によるものです。

本レポートに掲載されている発行体の有価証券、通貨、商品、有価証券その他の金融商品は、企業の活動内容、経済政策や世界情勢などの影響により、その価値を増大または減少することもあり、価値を失う場合があります。本レポートは将来のいかなる結果をお約束するものでもありません。お客様が本レポートおよび本レポートに記載の情報をいかなる目的で使用する場合においても、お客様の判断と責任において使用するものであり、使用の結果として、お客様になんらかの損害が発生した場合でも、フィスコは、理由のいかんを問わず、いかなる責任も負いません。

本レポートに記載された内容は、本レポート作成時点におけるものであり、予告なく変更される場合があります。フィスコは本レポートを更新する義務を負いません。

本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はフィスコに帰属し、フィスコに無断で本レポートおよびその複製物を修正・加工、複製、送信、配布等することは強く禁じられています。

フィスコおよび関連会社ならびにそれらの取締役、役員、従業員は、本レポートに掲載されている金融商品または発行体の証券について、売買等の取引、保有を行っているまたは行う場合があります。

以上の点をご了承の上、ご利用ください。

■お問い合わせ■

〒107-0062 東京都港区南青山 5-13-3

株式会社フィスコ

電話：03-5774-2443（IR コンサルティング事業本部）

メールアドレス：support@fisco.co.jp